

ほんのもり 10月



No 5.2022.10.
日の出中学校図書館
学校司書 中井孝子

～日の出中図書館だより～

10月は全国の神さまが島根県出雲市にある出雲大社に集まるといわれています。10月の別名は「神無月（かんなづき）」ですが、出雲地方では「神在月（かみありづき）」といいます。出雲大社では「神議り（かみはかり）」という会議が行われており、全国の人びとが幸せに暮らすにはどうしたらいいのかなどを話し合うそうです。『ポプラディア情報館年中行事』より。

読書の秋、日の出中図書館で本を借りて読もう。



📖 秋の一句を 📖



柿くへば 鐘が鳴るなり

法隆寺

正岡子規 1867～1902

ある秋の一日、奈良県の法隆寺にお参りして、門前の茶店で柿を頼んで美味しい柿を味わっていると、法隆寺の鐘が鳴ったといっています。この句は子規の代表句の一つです。

「柿」が秋の季語。奈良名産の柿は御所柿（ごしよがき）とよばれ、大きく、甘いのです。そして子規の好物でした。好物を口にする子規の様子が目に浮かぶようですね。



♪ 10月28日は第29回合唱祭 ♪

『くちびるに歌を』 中田永一／小学館

長崎県五島列島のある中学校に合唱部の臨時顧問としてきたのが、美人の柏木先生だった。彼女に魅せられて、女子部員しかいなかった合唱部に男子部員が殺到、練習にまじめに打ち込まない男子と女子とが対立する。コンクールはどうなる？そして、先生が課題とした「15年後の自分に向けた手紙」には人には言えない秘密が…

『拝啓十五の君へ』

NHK 全国学校音楽コンクール政策班／ポプラ社
アンジェラ・アキさんのつくった『手紙』をきっかけとして彼女が各地の中学校を訪ねて対話をした記録。悩みを語る中学生に対するアンジェラ・アキさんの言葉がとても繊細で優しい。

『表参道高校合唱部』 桑畑絹子／学研プラス

表参道高校に転校した香川真琴は、合唱部に入部するが、人数不足で廃部寸前だった！部員は集まるのか？2015年のテレビドラマが小説としてよみがえった。



おすすめ本です



『かがみの孤城』 辻村深月／ポプラ社

学校での居場所をなくし、家に閉じこもっていたところの目の前で、ある日部屋の鏡が光り始めた。鏡をくぐり抜けた先には城のような建物があり、そしてここに似た境遇の7人が集められていた…すべての謎が明らかになったとき、深い感動につつまれた。登場人物それぞれの心理描写がとてもリアル。2018年本屋大賞受賞作。さらに今年12月に映画化の話題作。

『精霊の守り人』 上橋菜穂子／新潮社

精霊の卵を宿す皇子チャグムを託され、命を懸けて皇子を守る女用心棒バルサの活躍を描く、痛快な冒険シリーズ。バルサの長年の修練を積んだ戦い方、身のこなし、気の強さ、性格の飾り気のなさ、どれもがかっこいい。そして彼女を理解して助けてくれる仲間がいる。数々の賞を受賞した作品である。ファンタジーを読まない人も、ぜひ。

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』 東野圭吾／角川書店

悪事を働いた3人は逃走用の車が故障して、仕方なく廃業中の雑貨店に逃げ込む。そこにはだれも住んでいないはずなのに、悩みが書かれた手紙が舞い込んできて…人にはさまざまな悩みがあり、それでも懸命に生きている。雑貨店の秘密が明らかになるとともに、温かい気持ちになる。

